

平成30年度第2回群馬県立農林大学校評価外部評価委員会 開催結果

事務局 農林大学校

1 日時 平成31年3月15日（金） 14時から16時30分まで

2 場所 群馬県立農林大学校 研修館 第3教室

3 出席者数 委員6名、事務局8名

4 議題

- (1) 平成30年度群馬県立農林大学校評価について
- (2) その他

5 委員の主な意見

- ・課題研究の全国大会や懸賞論文の入賞に向けて学生指導をしっかりと行うこと。
- ・ホームページ等での積極的な広報を今後も継続して実施してほしい。
- ・県内に農学部ができ苦戦すると思ったが、入校生が増えて良かった。
- ・私学の動きも含めて群馬県の農業教育は活性化している。これが後継者の育成につながる動きになれば良い。
- ・就農支援についてのサポートが必要である。
- ・進路において就農50%を目標に取り組んでほしい。
- ・実践学校では研修生同士のつながりを積極的に勧めてほしい。

6 結論

- ・当委員会の意見をしっかりと受け止め、本年度達成できなかった目標については、来年度しっかりと計画して取り組んでいきたい。

◎資料

- ・次第、委員会名簿、実施要領
- ・農林大学校の近況について
- ・平成30年度群馬県立農林大学校評価システムシート

【発言録】

I 質の高い教育の実行

- 1 学生にとって分かりやすい授業の実施
- 2 学生がやる気と自信の持てる教育
- 3 社会生活の基本を身につける
- 4 教育環境の充実

清水委員
事務局

アクティブラーニングプロジェクトについて具体的に説明してほしい
学生自ら考えて行う対話的な授業（アクティブラーニング）を取り入れる手法
について、職員研修を行うもの。

石原委員
事務局

学生向けの研修などでは、テーマが野菜などに偏って、畜産向けの研修が少な
いのではないか。
全員共通の特別講演会などのテーマは難しいが、酪農肉牛コースの学生向けに
は資格取得の目的などで研修を行っている。今後は他のコースなどにも参考に
なるテーマがあれば検討していきたい。

森村委員
事務局

全国プロジェクトの入賞ができなかった。次年度に向けて、傾向と対策を。
全国大会の様子をビデオにおさめたので、来年度以降の学生指導につなげてい
きたい。

三輪委員

ヤンマーの懸賞論文は賞金も大きく（100 万円）学生のモチベーションも上が
るのでこちらの指導もお願いしたい。茨城や千葉では 100 万円をもらった学生
がでている。群馬からも是非。

下山委員
事務局

授業満足度は前期と後期で合わせて評価しているのか。それぞれか。
それぞれで評価している。前期の結果を後期に活かすため、後期の方が良い結
果となる。

II 実績の上がる学生募集の実行

- 1 入校希望者や保護者への農林大学校の P R
- 2 農業高校との連携強化

下山委員
事務局

インスタグラムでは本人が合格通知を載せているなどしている。HP だけでな
く学生の SNS も参考にしたい。
しっかりやっていきたい。

三輪委員	年度当初に友達 100 人集めてと話したがずいぶんと努力がみられる。
森村委員	県内に農学部ができて苦戦すると思ったが、入校生が増えて良かった。
三輪委員	私学の動きも含めて群馬県の農業教育は活性化している。これが後継者の育成につながる動きになれば良い。
下山委員	オープンキャンパスの 150 人目標で 149 人で B 評価は厳しい
三輪委員	A' でよい
石原委員	県内すべての高校を訪問しているのか。普通高校のレベルの高いところにも就職先の良さなどでアピールできる
事務局	一部の進学校には通知のみ。それ以外は全部を 6 月と 9 月に訪問している。
下山委員	ホームページはこまめに更新しており、努力がみられる。
石原委員	ちょっとしたきっかけで農業に興味を持つ子がいる。小さなことも発信をすることは良いことである。
事務局	ホームページやパンフレットの効果は高い。今の学生はこれらの効果で入校しているようだ。毎日の小さな出来事もホームページで発信している。 入校する学生は 7 割以上が非農家である。
三輪委員	作業しながら経営（金額や時間）についてももしっかり意識して学習してほしい。「もうかる」、「元気」、「楽しい」ということを教えてほしい。
清水委員	学校に入って農業を好きになってもらえればよい。
森村委員	新規参入は大変だと思うがどうか。
事務局	新規参入のハードルが高い。あちこち声をかけても農地が見つからない。研修先のつてがあると良いがつてがないと難しい。学校卒ですぐに就農する人にどういった支援ができるか考えている。
清水委員	中間管理機構などの行政の後押しが必要である。
三輪委員	耕作放棄地や遊休農地などについては地道に農業委員会などを介して地主に理解を求めていくしかない。農業者としての実績があると周りも認めてくれるが。軒下をかりるか、高齢化している農事組法人に雇用就農して、そっくり経営を預かるなどすればお互いに良い。

Ⅲ 実績の上がる進路指導の実行

- 1 進路希望の把握と進路指導体制の強化（1 年生）
- 2 きめ細やかな進路別指導（2 年生）
- 2 専門資格取得教育の強化

下山委員 | 就農率 50% は厳しい目標ではないのか？

事務局	昨年の就農率は40%。今年度は30%で10%減少している。この要因としては学生の非農家率が高くなったため。特に今年は野菜コースの就農が低下した。例年は野菜コースと酪農肉牛コースが就農率が高い。
清水委員	農家でも子供は一度は外に出したいという方も少なくない。
下山委員	毎年の増減はあるが、今後も50%を目標にするくらいがよい。
三輪委員	今年、初めて県庁でぐんま就農相談会を実施したが、農林大学生も参加してくれた。こうした取り組みを継続してほしい。
下山委員	資格の中に「わな免許」が入っていないが、鳥獣対策について学校で取り組みはどうか？
事務局	鳥獣被害対策の授業は全員必須で学んでいる。毎年「わな免許」は希望者に受験させており、今年19歳までは受験料が免除となったため、多くの学生が受験した。

IV 県民の期待に応えられる研修の実行

- 1 多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営
- 2 県民ニーズに対応した農業機械研修の実施
- 3 農林業に対する理解を深める公開講座の開催

森村委員	実践学校では仲間作りができたと聞いている。社会人となった後のつながりは大切。
事務局	研修生にも仲間作りを積極的に勧めている。
清水委員	年齢はどれくらいの人が学んでいるのか。
事務局	20代から60代まで幅広い。意欲があって、すぐに始める準備がある人が対象。家庭菜園は対象外。
森村委員	研修生では、少量多品目に取り組み、有機栽培でレストランに出すなど個性的な経営をしている人もいる。他の人の刺激になって良い。
下山委員	女性の受講者が少ない。2回で40名の目標は実際どうなのか。
事務局	1回あたり20名で募集している。遠方の館林や吾妻などで希望があり、農林大では受けられない人には、出向いて指導しているが、数には含めていない。

その他 全体を通じて意見

森村委員	農業高校では男子より女子が多いと聞いている。こうした農業高校の学生が農業系の進路を考えなくなってきているので、今後も厳しい状況は続く。
下山委員	全体には行事が多く、ずいぶんと頑張っている。今後も努力して良い学校にしてほしい。